

### 13 中村元博士の思惟方法

【全1回】／開催方法：現地

かさはらなるひさ  
笠原愛古

中村元記念館東洋思想  
文化研究所研究員



受講料 会員料金：¥3,000 早割価格：¥2,000(納入期限：10月3日)

【日程・時間】【全1回】 10月10日(火) 13：20～14：50

■受講に必要なもの

[テキスト] レジュメ配布

この度、先生方のご推挙により「中村元博士の思惟方法」と題して、お話をさせていただくこととなりました。「思惟方法」という講義名から中村博士の著作『東洋人の思惟方法』4部作を想起される方もおられるでしょう。本講義は、中村博士ご自身の書かれたモノ（テキスト）から「中村博士の考え方」を捉え直そうという試みです。

例えば、中村元選集決定版の劈頭を飾る『インド人の思惟方法（東洋人の思惟方法1）』にはネパール国王から中村博士宛に送られてきた「年賀状」について引用されています。このネパール国王は、中村博士が語られる際に「1978年ネパール国王から勲章を授与される。」とわずか1行のみで記されている王のことです。そのネパール国王とインド人からの「年賀状」に共通する考え方（思惟方法）として、特定の宗教のものではなく「世界一般に通ずる普遍的なものにしよう」とされていること、また「世界が次第に諸宗教の対立を超えたところに、尊ぶべきものを見出そうとしている」ということを読み取られています。このように特定の宗教思想の枠を超えたところにも、中村博士ご自身の思想・考え方を読み取ることができます。

本講義のような試みが必要とされる理由については、近年、中村博士の考え方に注目が集まりつつあることが挙げられます。例えば、『論点・東洋史学 アジア・アフリカへの問い158』（ミネルヴァ書房、2022）のなかでは、中村博士の『釈尊の生涯』（平凡社ライブラリー、2003）が次のように紹介されています。「中村の意図としては、一仏教徒であるか否かを問わず、人類にとって共通の精神的遺産を求めようとするための作業とされているところが興味深い」（7頁）。中村博士の著作に親しまれている諸賢には旧聞に属することではありますが、ここで大事なのは没後20年を経てもなお中村博士のお仕事が色褪せず、分野を超えて参照され続けているということなのです。

また中村博士は、自ら語られているように「世界平和への道」として自らの思想研究を位置付けられました。2022年、ロシアがウクライナに侵攻し、今なお事態が進行中であることを考えれば、中村博士が目指された、学問（人文科学）による世界平和への道、そこに至る過程を理解する必要性は、より増しているように思われます。中村博士に関心のある方の受講をお待ちしております。